病院薬剤師のしごと

～新潟県立病院薬剤師部会～

新潟県
NIIGATA PREFECTURE

県立病院での仕事内容の変遷

外来調剤から入院患者中心のチーム医療へ

加茂病院　小柴 庸一

県立病院では平成12年から医薬分業に取組み、その進捗にあわせて外来調剤から服薬指導や注射薬混合調製など入院患者中心の業務にシフトしてきました。

平成14年に処方日数制限が緩和され、同時にジェネリックの使用促進が図られました。その結果、入院時に大量の薬を持ち込む患者が増加し、この鑑別が患者の安全を守るための仕事として大きなウエイトを占めることになりました。

平成18年の医療法改正で、医療安全が強化され、平成22年の厚生労働省医政局長からチーム医療の推進について通知されました。

医療安全やチーム医療で貢献できるより専門的な知識と技術を身につけた若い薬剤師の育成を支援しています。

そこで、若い薬剤師に次の質問をしてみました

Q1）どんな業務をしていますか
Q2）やりがいを感じるのはどんなとき
Q3）ぜひ紹介したいことは

注射薬混合調製について

中央病院　八木 唯斗

がん治療に使う注射薬や NICU（新生児集中治療室）で使用する輸液を専用の設備を用いて無菌的に混合調製する業務を担当しています。

効果の強い注射薬は副作用などのリスクも高いものばかりで、それらを患者さんに安全に使用できるように、混合調製を行う前に薬剤師の視点でリスクがないかチェックしています。具体的には、患者さんの腎臓や肝臓の機能などの検査値や、病棟にいる看護師・薬剤師などのスタッフに患者さんの状態を把握し、医師が処方する薬の投与量や投与間隔を確認します。疑問があれば必ず医師に照会し、必要があれば処方変更を提案します。

この業務では患者さんと接する機会は少ないのですが、他のスタッフと協力しながら患者さんの薬物療法に積極的に関わっています。

医師、看護師が見逃してしまうような薬のリスクを見つけ、未然に防ぐことができたときに大きな喜びとやりがいを感じます。そのために幅広い薬物療法の知識を身につけるように努力しています。

病棟薬剤業務について

十日町病院　姫野 友紀子

薬に関することは何でもしています。入院前にどんな薬を飲んでいて、どう管理され、きちんと飲めていたか、一緒に飲んではいけない薬はないかなど、今後の治療に役立つよう情報をまとめます。また入院中の治療が安全に行われるように、患者さん各々の薬の種類と量、点滴の速さや経路、副作用などを確認し医師等に提案します。そして退院後もしっかりと治療が続けられるように、患者さんやご家族に指導したり、生活スタイルにあわせて調節したりします。患者さんの状態を医師・看護師と一緒に把握・相談し、そして患者さんの話をよく聞き、安全で効果的に薬が使えるように取り組んでいます。

医師、看護師だけでなく患者さんから薬の相談をされ、その後良くなって笑顔で無事に退院

された時は、やはり嬉しく思います。

他の業務と掛け持ちのため業務量はとても多いのですが、病棟にいることで他の医療スタッフだけでなく患者さんとの距離も近くなり、以前よりも様々な面で関わりが深くなったと思います。大切な薬が安全に正しく使えるようサポートしたいと思っています。

緩和ケア薬物療法認定薬剤師として

がんセンター新潟病院　佐々木 奈穂

緩和ケアは身体的な痛みや気持ちのつらさを和らげ、患者さんやご家族にとってよりよい生活を実現するための医療です。緩和ケアチームは医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種で構成されており、その中で薬剤師は、患者さんの状態に合った薬の使用方法や錠剤・こな薬などの剤形の提案、副作用の確認などを行っています。

緩和ケア領域では通常と異なる使い方をする薬剤も多く、その情報をまとめ他の医療者へ伝えることも役割の一つです。難しい状況でもチームで力を合わせ患者さんご家族の苦痛が和らいで笑顔が見られた時は、やりがいを感じます。

カンファレンスの時や、患者さんから話を伺

う時にはコミュニケーション力が必要です。正確に痛みの状況を聞き出して患者さんの背景や痛みの感じ方に応じた薬や使用方法を提案することを心がけています。

くすりの豆知識

～ ジェネリックについて ～

ジェネリックとは？

新薬の特許が切れた後に販売される、新薬と同じ有効成分、同じ効能・効果をもつ医薬品です。

ジェネリックはなぜ安い？

通常、医薬品を新しく開発するためには、長い（10～20年）年月と数百億円もの費用がかかります。ジェネリックの有効成分はすでに有効性・安全性が確立されていることから、開発期間は2～3年程度と短く、開発費用も約10分の1と少なくすむため、ジェネリックの薬価は新薬よりも安くなります。

新薬とジェネリックは全く同じ？

全く同じとは限りません。ジェネリックと新薬は、有効成分は同じでも添加物が異なる場合があります。これは、味を良くしたり、口の中で溶け易くなるように製剤的な工夫をするためです。ただ、異なる添加物を使用する場合、規定により有効成分の治療効果を妨げたりする物質を添加物に使用することはできません。有効性や安全性に違いが出ることがないように、ジェネリックの審査においてデータの提出を求め、有効成分の血中濃度推移が新薬と同じであることを確認しています。

患者さんの体質によっては、稀に添加物が原因で新薬にはなかったアレルギー反応などの副作用等を引き起こすことがあります。添加物の変更による副作用は、新薬であってもジェネリックであっても同様に起こりえます。

ジェネリックと県立病院

国の方針に沿って県立病院では、患者さんの負担軽減を目的にジェネリックの使用促進に取組んでいます。外来では保険薬局でジェネリックへの切り替え可能な処方せんに変更しました。また、入院では抗がん剤、造影剤など高額な薬品の切り替えを進めています。

問い合わせ

〒950-8570　新潟市中央区新光町4－1
新潟県病院局総務課職員係
電話：025-280-5554　FAX：025-285-3843
http://www.pref.niigata.lg.jp/byoin/